

大阪を襲った地震と津波—先人が伝えた災害教訓・四天王寺の地震津波石碑文— はじめに

「みおつくし」50号では、江戸時代に大地震と大津波を経験した大阪の町の人々が建立した碑文・大地震両川口津浪記をご紹介いたしました。今回は、大阪・四天王寺にある地震津波石碑文についてご紹介いたします。

四天王寺の地震津波石碑文について

四天王寺の元三大師堂の門前の広場に、七段に積み上げられた無縁墓群があります。その最上段中央には正面（東面）に大きく南無阿彌陀佛の名号が刻まれた石塔があります。その正面下部に刻まれた碑文は周囲にある無縁墓石によって隠されていますが、色々な場所から、角度を変えて読むと、「諸国地震及洪浪・水陸横死大菩提」と刻まれ、地震と津波による犠牲者を供養する石碑であることがわかります。さらに、裏面（西面）に回りこんで碑文を読めば、はっきりと「安政二乙卯秋建之」とありますから、安政元年に起こった南海地震とそれに伴う津波の犠牲者の供養石碑であることがわかります。

石碑の側面（南面）には、3行の細かい文字が刻まれています。地震と津波による災害の状況について記しています。石碑文の下部が他の無縁墓石によって隠されて、どうしても見えない箇所があります。筆者は2010年の春頃から四天王寺に何回も足を運び、判読に努めて、碑文の大意をつかむことができました。この石碑の裏面（西面）には「海鳴潮の干満みだれし時は早く津波の兆^{きざし}と知りて難をのかれ玉ふへし」と、教訓が刻まれています。また、津波が襲った前日、11月4日に大阪で海鳴、潮の干満の異常があったと記述しています。4日に東海地震が起こっていますから、その影響と考えられます。大阪関係史料で、11月4日に海鳴、潮の干満の異常があったとするものは、この碑文以外にはありません。とても重要な災害の記念碑なのです。この地震津波石碑について、四天王寺にお尋ねしましたが、ご存じありませんでした。このまま無縁墓と一緒に積み上げられ、放置されるなら、忘れ去られて、最悪の場合、廃棄される可能性もあると考え、石碑の保存や、防災教育への活用利用されることを願って、日本地震学会の論文集『地震』に投稿致しました（2011年春に掲載）。その頃、NHK教育テレビ『歴史は眠らない』で、「地震列島・日本の教訓」が企画され、大地震両川口津浪記石碑が採り上げられることになり、筆者にも協力依頼がありました。そこで、四天王寺の地震津波石碑のお話をしたところ、取材をされることになり、2010年秋に撮影が行われ、翌2011年1月4日に放映されました。その後、四天王寺の地震津波石碑文の写しが、慶応大学メディアセンター所蔵の『地震海溢記』に記載されていることに気付き、コピーを取り寄せて検討しました。これについて、歴史地震研究会『歴史地震』に報告として投稿しました。（2012年7月掲載）。

2011年3月11日に東日本大震災が起こり、過去の地震・津波災害への関心が高まる中で、翌年の夏、大阪歴史博物館で特別企画展『大阪を襲った地震と津波』が催されました。大地震両川口津浪記石碑とともに、四天王寺の地震津波石碑も紹介され、人々の注目を集め

ました。

大阪市教育委員会による調査

2012 年秋、NHK が四天王寺の地震津波石碑の調査を企画し、四天王寺のご協力のもと、大阪市教育委員会が拓本を採り、判読を行うことになりました。無縁墓の周囲に足場を組み、地震津波石碑に近づくことが出来るようにして、市教委の文化財保護担当の方が、厳しい日差しの中、高所の狭い場所で、拓本を採られました。筆者も調査当日、参加して、他の墓石に隠されていた部分を、間近に読むことが出来ました（2012 年 12 月 28 日 NHK おはよう日本「よみがえる石碑、災害の記憶を後世に」で放映）。この調査によって、筆者の過去の判読に誤りもあることがわかりました。また、石碑の台座には、石碑建立の発起人、世話人として協力した大阪の町の人々 32 名の名前が刻まれていることも判明しました。今回の調査で確認された、最新の判読文を以下に記します。

碑文の判読文

正面（東面）

諸国地震及洪浪

南無阿彌陀佛

水陸横死大菩提

南面

去年霜月四日五日の地震を遁^{のがれ}ん為^のに小船に乗居^{やからにわか}し輩^の俄^のの洪浪湧か如く
木津川口邊の大小^{あまた}船一時に川上に押寄橋を落し船を摧^{くだ}き漂没死人^{おびただ} 夥^し
尤^も前日より海鳴潮の干満乱しを志^しらずして死に至る者^{まこと} 寔^{まこと} 憐^れむへし^{こうせい} 后世

裏面（西面）

海鳴潮の干満みだれし時は早く津波の兆^{きざし}と知りて難をのかれ玉ふへしと云爾^{いうのみ}

安政二乙卯秋建之

碑文の口語訳

去年 11 月 4、5 日の地震から遁れようとして、小船に乗り込んだ人々があったが、にわかには大波が湧き上がるように起こり、木津川口辺の大小多数の船が、一時に川上に押し寄せ、橋を落とし、船を砕き、溺れて死ぬ人が夥しかった。もっとも、前日より海鳴、潮の干満の乱れがあったが、それを知らずに、死んでしまった人々は、まことに憐れむべきである。後の世に、海鳴、潮の干満の乱れがあった時は、早く津波の前兆と気付いて、災難から逃れてください。

おわりに

四天王寺をはじめ、防災に関心のある多くの人々のご尽力により、2013 年春、四天王寺の地震津波石碑は、大阪市顕彰史跡に指定されました。今後、保存や活用について、具体的な方策がとられることとなります。私たちはこの石碑に刻まれた先人の教訓を生かして、近い将来必ず襲ってくる災害に備えたいものです。この石碑は、放送大学大阪学習センターから徒歩 15 分程度の四天王寺にありますので、ぜひ一度訪れて、碑文をお読みになって下さい。

参考文献

長尾武「大阪・四天王寺, 安政南海地震津波碑文の判読」(歴史地震研究会『歴史地震』第 27 号、77-84 頁)。歴史地震研究会のホームページで閲覧できます。

長尾武『水都大阪を襲った津波』2012 年改訂版、自費出版。

ただし、上記の拙稿では、石碑を近くから見ていないので、誤字があります。



無縁墓群の最上段、中央に位置する石塔が、安政の地震津波石碑です。



石碑の東面と南面、東面には、「南無阿彌陀佛」、南面には細かい文字で地震・津波の様子が刻まれている。